

# 光触媒複合遮熱塗料 イーデンペイント(EDP-S)塗装標準施工仕様書

## (共通工事仕様 平成21年版)

●光触媒複合遮熱塗料／イーデンペイントEDP-Sは環境対応型の水性自己乳化型アクリル変性ウレタンエマルジョン塗料に銀系光触媒を表層にコーティングした塗料です。

遮熱塗料層には親油性基を導入しているため、耐熱水性・耐水性・耐候性に最も優れ、また柔軟ながら強い塗膜を形成し、伸びと弾性を有した難燃性の遮熱塗料です。太陽光中の近赤外線を、放射・反射し、発熱を抑制する優れた遮熱効果と、光触媒による有機物分解、超親水性による防汚効果・環境浄化が期待できます。

工程	材料の調合	施工方法	可使用時間	使用量	施工間隔
素地調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施工前は平滑で、汚れ、ゴミ等の付着物がないこと。</li> <li>・下地に付着しているゴミ・土砂・油分・レイトンス等は、ワイヤーブラシ、サンドペーパー等で除去する。</li> <li>・型枠方法で離型剤がコンクリートに付着している場合は溶剤(シンナー)等で洗浄する。</li> <li>・木型枠の木肌が残っている場合は、ワイヤーブラシなどで除去する。</li> <li>・錆・錆穴・亀裂・浮きなどがある場合、錆処理、錆止めペイントを塗布し、アステープ処理を行なう。剥ぎ取った凹部分はコテ等用い、セラテック(防水コート材)で平滑に処理する。</li> <li>・気温5度以下、湿度85%以上の場合や降雨が予想される場合は塗布をしないで下さい。</li> </ul> <p>※夜露にご注意下さい(未乾燥状態時、夜露は降雨と同じです。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・素地は十分に乾燥していることを確認してから次の工程に入ってください。</li> </ul> <p>(含有率 10%以下、PH10 以下とする)</p>				
プライマー	カチオンコートオール 15kg (原液で使用する)	刷毛 ローラー スプレーガン		0.1～ 0.16kg/m <sup>2</sup>	2H 以上
遮熱層仕上げ塗り	遮熱塗料／イーデンペイント(EDP-S) 主材 13kg 硬化材 1kg	刷毛 ローラー スプレーガン	6H 以内 23℃	0.1～ 0.28kg/m <sup>2</sup>	3H 以上 ～24H
トップコート EDF塗装用	光触媒層／ イーデンペイント トップコート 主材 1L, 又は2L	中低圧スプレーガン		3.3mL/m <sup>2</sup>	8H 以上

### 注意事項

カチオンコートオール : 夏季直射日光を避けてください。また冬季は凍結しないよう御注意下さい。  
使用した用具類は作業終了後、直ちに水洗いして下さい。

遮熱塗料 : 2液型ですので、マーゼル等で十分に攪拌して下さい。不十分の場合は硬化不良となります。

トップコート (光触媒層) : コーティング面に水分が付着していないことを確認し計量カップ等で計量し適正量をコーティングして下さい。

\* 適用被塗装面の材質はコンクリート・セメント系、スレート系屋根・壁材、窯業系サイディング、金属系屋根・壁材、シート防水・塗膜防水層等に施工できますが、フッ素系塗膜が施された面には適しません。

又、長く風雨にさらされ表面が粗くなったコンクリート・モルタル面、リシン塗装面、モルタル掻き落とし、珪藻土、ジョリパット等の表面が粗く、吸い込みが大きな下地に施工する場合は、樹脂モルタル等による下地処理が必要です。

既設塗装面に施工する場合、その色合い等によっては遮熱塗料の下塗りが必要な場合があります、事前に試験施工されることをお勧めします。

## 1) 材 料 ・ 荷 姿

- |  |                                      |
|--|--------------------------------------|
| ①カチオンコートオール(1液アクリルカチオン型プライマー)                | 15kg                                 |
| ②イーデンペイント(EDP-S) / 遮熱塗料(自己乳化型アクリル変性ウレタン樹脂塗料) | 13kg+1kg SET                         |
| ③イーデンペイント(EDF-P) / 銀系光触媒=EDFペイント用            | 1 $\frac{1}{2}$ リ, 2 $\frac{1}{2}$ リ |

## 2) 作業のための養生

- ① 計量及び混合の場所は、ビニルシート、ダンボール紙等を利用して養生する。
- ② 塗布箇所の端部付近及びその周辺は、塗布時に材料が飛散して汚染する事があるので被覆養生する。
- ③ 塗布端末部を通りよく仕上げる場合は、マスキングテープを貼り、塗布後、硬化状態を見計らって撤去する。

## 3) 塗 膜 の 養 生

- ・施工終了後の養生時間は、3時間以上。
- ・塗膜養生は、3時間以上。  
下記の作業を行う場合は、塗膜を損傷しないように養生する。
  - ①火花の散る恐れのある溶接、溶断の作業やグラインダーがけ作業。
  - ②ねこ車等の運搬車又は椅子、脚立などを使用する作業。
  - ③タイル貼り左官、塗装、配管及び墨だしなどの作業。
  - ④仮設材料、資機、材類の運搬及び取り付け作業。

## 4) 保 管 及 び 取 り 扱 い

- 保管及び取り扱いには、消防法及び労働安全衛生法並びに、それらの関係法規の規制により安全に確保する。
- ①材料は、雨・梅雨・直射日光が当たらない場所に密封状態で保管し、その貯蔵安定期間を厳守する。
  - ②塗料及びシンナーは火気に十分注意し、使用に当たっては換気に万全を期す。

## 5) 作 業 環 境

- ①施工時の天候
  - ・降雨、降雪時、または降雨、降雪、夜露が予想される場合、もしくは降雨、降雪後で下地が未乾燥の場合は施工しない。
  - ・外気温5℃以下での施工はしない。
  - ・強風及び高温多湿の時は施工しない。
- ②作業環境
  - ・作業場所は、常に整理整頓を行う。
  - ・作業場所は、十分な換気と採光を確保する。
- ③作業環境の整備は、建築工事一般安全管理事項により、係員と打ち合わせの上遵守する。